

木の芽峠探訪記



木の芽峠 前川邸訪問記

2016年11月7日、秋深まる南越前町の山間、木の芽峠の前川邸を表敬訪問してきました。御影道中30年のベテラン後藤金三郎さんにご案内願ひ、正規の峠越えの道行きを割愛させていただき、スキー場内の林道を一気に車で駆け上がり、秋晴れの日差しに守られて無事到着。純白の2匹の番犬の出迎えを受け、550年の歴史的建造物の中に入れていただきました。黒光りした囲炉裏の周り天井から吊された木杵の煤けた重厚感が、歴史を物語っています。

前川永運さんは、昨年のお影道中のお立ち寄りで、例年のお役目の一つである「言うな地蔵」の御堂までの600メートルを御影の葛籠を担いでお見送りされたのですが、このほか身体に不調を感じられ、後片付けを済ませて病院に行かれたところ、心臓の緊急手術を受けることになり数か月の入院生活を送られていました。夏も過ぎ最近漸く身体を動かせるようになり、少しずつ峠道の草刈りなどができるようになったとのこと。寒い冬が近づき、厳しい環境の中ですが一日も早く全快され、明春のお影道中でも元気なお姿で蓮如上人御一行をお出迎えいただけることを念じ申し上げます。

前川さんと後藤さんと共に囲炉裏を囲んで、慣れない来訪者は薪を燃やす炎に顔を



火照らせ煙が目に染みる中、いくつかのお尋ねに対して丁寧な応答をくださいます。次々に飛び出す四方山話に耳を傾けていると、時間の経つのも忘れてしまいます。

やはり話題の中心は後継者の問題と家屋を始めとする財産保全の問題でありました。年間を通して恒例となっている、宗教行事と滞りなくお迎えし、遂行してゆくことは、その日その時だけのことではありません。一年を通して、家を守るために雪を掻き、雨が漏れぬ様茅葺き屋根の補修をしたり、道を保全する為に夏草刈りや水路に溜まった泥や落葉を取り除く作業は体力が必要です。前川さんは、その体力の回復に一抹の不安を抱えながら、祖先から受け継いだ伝統を何とかして守ってゆきたいという使命感と強い信念で人生を尽くしていく強い気持ちで、静かに語っておられました。

今日はあらためて、蓮如上人のご遺徳を偲びつつ御影道中の歴史の重さと継続されてゆく不思議を実感する一時でありました。 (吉崎別院輪番記)

